

気象業務 150 周年



気象庁の前身である東京気象台が気象業務を開始してから令和7年で **150 年**の節目の年となりました。気象庁ができるまでを簡単にご紹介します。

日本では古来より自然から多くの恩恵を受けてきた一方、台風や集中豪雨、地震・津波、火山噴火などの自然災害に見舞われる等、人々の暮らしと自然は密接に関わってきました。

明治時代になり、海外からの技術を取り入れた近代的な国づくりを進めました。明治4年に工部省に測量司を置き、東京府下の三角測量を始めました。灯台建設や鉄道布設のために来日したイギリス人の測量師が気象観測の必要性を政府に意見しました。それにより、工部省測量司が明治7年1月に内務省に移管され、同年8月には内務省地理寮量地課と改称され、その後、明治8（1875）年6月1日、東京府第二大区溜池葵町（現在の港区虎ノ門）の地理寮構内にて、「東京気象台」としての地震観測が開始され、同月5日に1日3回の気象観測が開始されました。これにより、我が国における気象業務が幕を開けることとなりました。

東京気象台は後々に全国的な気象業務を司る中央気象台の基礎であり、現在の気象庁の前身のような位置づけです。気象記念日（6月1日）は、気象業務を開始した日を記念したものです。



明治初期の東京気象台

東京気象台は、明治 20（1887）年 1 月に中央気象台と改称、その後、明治 23（1890）年 8 月に正式な官制組織となり、昭和 31（1956）年 7 月に気象庁となりました。平成 13（2001）年 1 月の中央省庁等の再編に伴い、気象庁は国土交通省の外局として業務を実施しています。

気象業務開始から 150 年の節目に、青森地方気象台の歴史もあわせてご紹介します。

青森地方気象台（旧青森測候所）は、明治 15（1882）年 1 月 1 日に設置されました（陸奥国東津軽郡大野村字長嶋県庁構内に開設。）。創設当時は、内務省地理局の所管で、1 月 1 日から毎日 3 回の定時観測を開始しています。また、明治 20（1887）年 4 月 1 日に、青森県に移管となりました。その後、昭和 13（1938）年に全国的に県立などの測候所が国営に移管されたのに伴い、管轄が国に変更となりました。その後、昭和 32（1957）年 9 月 1 日に青森測候所から青森地方気象台に昇格しています。下の写真は、昭和 25（1950）年頃の青森市佃の庁舎です。昭和 3（1928）年に、それまでの庁舎（当時の青森警察署の 2 階）から新築庁舎へ移転しています。



写真 1 昭和 25 年頃の佃庁舎

また、昭和 14（1939）年には青森市油川に移転（それまでの佃庁舎は、佃臨時出張所として観測は継続）しました。油川への移転は、当時、油川に青森飛行場が開設されたことが一つの要因と言われています。油川と佃の 2 か所に分かれて観測を行っていましたが、昭和 31（1956）年には、元の佃庁舎へ移転しました。



写真 2 青森測候所（油川庁舎）（撮影時期不明）

その後、平成元（1989）年に、現在の気象台のある花園一丁目へ移転を行いました。この移転は、佃庁舎の位置に新しく道路を作るための立ち退きとのことでしたが、その後、道路は建設されず、佃庁舎の跡地は公園（つくだウェザーパーク）となっています。

以上の経緯を経て、今の青森地方気象台が所在しています。創設されてから 143 年経った今まで、皆様のご理解とご協力のもとで成り立っております。地域の防災に貢献するため、技術の向上に努めて参りますので、今後とも青森地方気象台をよろしくお願いいたします。

○気象業務 150 周年特設サイト

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/150th/index.html>

○気象業務の歴史

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/gyomu/index2.html>



国土交通省 気象庁 青森地方気象台
〒030-0966 青森市花園一丁目 17 番 19 号



気象庁ホームページ：<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>
青森地方気象台ホームページ：<https://www.data.jma.go.jp/aomori/index.html>